

民報 ゆうばり

第4回定例市議会でもまい市議が質問

子育て環境の充実・高齢者と子どもにも配慮した交通を！



12月17・18日の二日間、第4回夕張市議会が開催され、日本共産党のくまがい桂子市議が、「子育て環境の充実について」「高齢者や子どもたちについて」の二点について質問しました。質疑の概要について、お知らせします。

◆ ◆ ◆

1、子育て環境の充実について

質問1 アンケート調査に寄せられた保護者などの意見や要望は。

答弁1 主な意見・要望としては、●放課後や休日

子どもや親子が安心して集まれる場所がほしい ●専門医にかかれる医療体制 ●安全な公園整備 ●保育サービスの充実 ●自宅以外の学習場所がほしいなど。

質問2 子育て支援事業についての対応と実現の可能性は。

答弁2 児童ショートステイなどの宿泊を伴う事業については、その施設となる、児童養護施設が市内に設置されていないため実現は困難。就学児も活用できるファミリーサポートセンター事業は、相互援助組織であり、アドバイザーなどが必須なため当面実施は困難。病児児童

保育は、受け入れ医療施設、人員配置の関係で当面は実施が難しい。

新たに事業展開が見込まれる事業として検討中なのは、地域子育て支援事業として、現在行われている緑が丘保育園のケンキッズ、市保健師などによる育児教室、新夕張保育園の元気ルームのうち、元気ルームを1か所増設し、2か所で実施（H28年以降）に向け協議中。一時預かり事業は現在緑が丘保育園で2歳以上を対象に行っているが、認可保育所でもH28年以降、定員に満たない園児数の範囲で一時預かりを行う予定。また、延長保育事業として、H27年度から7時30分から18時30分まで、30分の保育時間延長を実施予定。

質問3 子育てや公園の機能を整備するワーキンググループに、子育てを経験した女性職員の参画が必要と考えるが現況は。

答弁3 子育て中の職員など女性3名が参画している。

質問4 図書館の学習室や児童館などの代替施設として、旧校舎の空き教室や研修センターの一部、町内会館などを開放し、幸福の黄色いハシカチ基金などの活用も含め、有償ボランティア等配置してはどうか。

答弁4 集まれる場所重要。財政面の影響も検討し、様々な部署と連携を進めながらしっかりと検討を進めたい。

2、高齢者や子どもたちに配慮した交通について

質問1 期待されているデマンド交通の導入について、現在の状況と、今後の見通しは。

答弁1 現在事業者の経営が非常に厳しく、路線維持が問題視されている。市民が利用しやすく、市の財政負担を軽減し、交通事業者の経営改善を図る取り組みが

必要であり、引き続き関係交通事業者と協議検討を行っていく。南部地域に先行導入を検討しているが、人員の確保、車輛の実証運行に必要な経費負担の在り方について、解決すべき課題があり、現時点では実施事業者の確保はできていない。

質問2 全国の例をみると、うまく成功させている例としては、送迎を実施している医療機関なども含めた、地域デマンド交通をつくり、子どもからお年寄りまで低料金で利用し、各医療機関も経費の削減につながっているという事例がある。

答弁2 協議会の中でもアンケート等でも状況把握に努めてい

る。さまざまな持続可能な公共交通のあり方を議論し、具体の事業者の確保についてもどう克服していくかも含め考えていきたい。

要望 地域活性化モデルケース総合コンサルティング会議の中で、コンパクト化への取り組みとして、住宅のほか、地域公共交通関係の部分で各種送迎バスも含めた検討や面整備と合わせた効率的な交通体系の構築をするための全体計画が必要とある。数年後にはデマンド交通が整備され、高齢者が重い買い物をして、ドアからドアへ人と荷物を運んでくれる、また、保護者が送迎をできなくても、子どもたちがデマンド交通を使って放課後や土日に少年団のスポーツなどを楽しんだりすることもできる。現を期待する。

開業として検討中なもの、地域子育て支援事業

が利用しやすく、市の財政負担を軽減し、交通事業者の経営改善を図る取り組みが

でもアンケート等でも状況把握に努めてい

現を期待する。

平成 27 年

夕張市成人祭開催

1 月 13 日清水沢研修センター 2 階大会議室を会場に、平成 27 年夕張市成人祭が開催されました。今年も雪降る中、50 数名の新成人たちが保護者に付き添われたりして参集していました。

青年の要求に応え、生活の向上や平和、民主主義の実現など、よりよい社会を作ることを目指す民主青年同盟は新成人に「おめでとうございませす」のチラシとアンケートを差し出すと、晴れやかな笑顔で受け取ってくれました。



くずさんの夕張歴史散歩⑱

しかし、結果は

夕張・飯場と坑夫 ④ 飯場制度の廃止を断行

井上角五郎理事など北炭の経営陣が断行に踏み切ったのが、1893 年（明治 26 年 9 月）「飯場制度を廃止し鉱夫を直接雇用する」大手術でした。

これまでの作業現場での権限を飯場頭中心であったのを抑え込み、賃金も飯場を通さず鉱夫に直接払いにするという内容でした。

飯場経営者（飯場主）は、これまでのうまみを取り上げられ、坑夫にとっては、飯場による 7% のピンはねが無くなるので賃金は増えるはずでした。しかし、会社は恐慌不況を理由に「鉱夫組長制度の廃止を考慮して、賃金の平均 10% を減じた」（北炭七十年史・52 頁）のです。坑夫の要求した賃上げは、逆に賃下げになってしまいました。

飯場制度の廃止によって、会社にとっては増産と稼働体制が完成したかのようにみえました。

しかし、長いこと引きずっていたこれまでの関係は、そう簡単に替わるものではありません。結局、飯場を会社直営として残し、飯場と坑夫の関係を巧妙に利用していきます。

親の世話役さん ときに鬼の世話役に

翌 27 年 4 月、鉱夫組長（飯場頭）から「善良な組頭」（会社に都合のよい飯場頭）を「世話役制（鉱夫係）」に採用します。会社直属の労働係です。

俗にいう「親の世話役さん・ときに鬼の世話役」が登場します。

こうして鉱夫の毎日の稼働強化と、居住地での日常生活までも監視管理する体制を作り上げます。ここに、長きにわたる北炭の労働管理の基本が形づくられ、強化・継承されていきます。（この項おわり）

◆ 後日、その労働支配の実態を紹介したい。



「国会かけある記」

日本共産党参議院議員

大門 実紀史

日本の夜明けは北海道から

昨年十一月二日、赤旗まつりの会場で開かれた北海道のつどいに市田忠義副委員長が飛び入りで参加してくれました。あいさつの前に市田さんが私に「日本の東の端は北海道だよな？」と訊かれたので、納沙布岬の本土最東端の記念碑を思いだし、「そうです」と答えました。そのあと市田さんは「大門さんによれば太陽は北海道から昇るそうです。日本の夜明けは北海道から！選挙勝利にむけて頑張りましょう！」と訴えられました。

太陽は日本では南東方向から昇るので北海道からとは限らないのですが、参加した皆さんは大喜びだし、市田さんは京都でも沖縄でも同じことを言っておられたので、まあいいかと黙って聞いていました。しかしその一か月半後、ほんとうに北海道から陽が昇りました。畠山和也衆議院議員の誕生です。

畠山さんは農林水産委員会の所属になりました。紙智子さんも参議院の農水委員会。北海道コンビがわが党の農業分野の論戦をにやいます。いま全国で、特に北海道で TP 参加反対、農協つぶしをやめろの声が大きく広がっています。現場の運動と日本共産党の頑張りでその声を文字通り「オール北海道」に発展させていく必要があります。お二人にはその先頭で頑張っていたください。

「オール北海道」のたたかいが安倍内閣を退陣に追い込む政治的变化につながったとき、さらに大きな意味で「日本の夜明けは北海道から始まった」と言えるのではないのでしょうか。